

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2017.2 No.75

－ 特集 －

- 1 頁：「人間力の育成に向けて」 石川県教育委員会教育長（石川県文教会館理事長） 田中 新太郎 氏
2・3頁：「第26回全国産業教育フェア石川大会」を終えて一心と技の彩りを百万石の集いから－
石川県教育委員会事務局学校指導課課長補佐 六反田 雅宏 氏
4・5頁：インタビュー 「人」 加賀友禅作家 佐藤 由美子（瀬端 由美子）氏

「人間力の育成に向けて」



石川県教育委員会教育長 田中 新太郎
(公財)石川県文教会館理事長

学校の先生の仕事は大変だと思っておりますが、教育長の職に就いてから改めて現場の声を耳にするにつけ、今はさらに忙しくなっていると感じております。こうした中であっても、先生方が子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合い、日々教育活動に真摯に取り組まれていることに敬意を表したいと思います。

さて、全国的に人口減少問題への対応が大きな課題となっております。本県でも、平成27年10月に、本県人口の50年後の将来展望を示した「いしかわ創生人口ビジョン」と、5年間の行動計画となる「いしかわ創生総合戦略」が策定され、様々な施策が展開されております。

各学校においては、子どもたちの学力向上及び人間力の向上に努めていただいておりますが、是非、子どもたちが将来のふるさと・石川県の姿について考える時間も作っていただきたいと思っております。発達段階に応じて、自らの住むふるさとの歴史・伝統・文化・経済などについて考える中でその魅力を再発見し、県外の高校や大学に進学しても、石川県に戻って就職するというような選択肢が、子どもたちの中に生まれてくるのではないかと考えております。

幸いにも、石川県では近年企業誘致も進み、名前の通った企業も県内での立地や拠点化を図っています。また、地元企業には、規模は小さくても確かな技術力を持って、今後何十年経っても生き残っていける中小企業がたくさんあります。

今の時代は、大企業で働くことが必ずしも幸せにつながるとは限りません。グローバルな大企業の大規模なリストラもよく新聞紙上を賑わせます。今はもう、大企業に入ったら安心だという時代ではなくなったといえるでしょう。それに対して、たとえ地域の中小企業であっても、中心的な役割を担いながら地域社会に貢献する人生を送っていくということも、非常によいことだと思っております。魅力的で、生涯にわたって働きがいのある企業が県内にはたくさんありますので、子どもたちの将来に選択肢を広げていくことも大切であると思っております。

また、前職の商工労働部長時代には、地元企業の経営者の方とお話をする機会が多くあり、その中で採用につ

いて3つの事柄を知りました。

- ①親元だからという理由で地元企業を志望した学生より、県外から志望した学生を採用したい
(自社選択の理由重視)
- ②学校の成績が良いだけではダメで、しっかりと対話のできる学生を採用したい
(コミュニケーション力重視)
- ③海外勤務を嫌がらない学生を採用したい
(グローバルの観点重視)

つまり、当然ながら、社会人として精神的にも自立していること、学力と同時にコミュニケーション力をはじめとする人間力を鍛えなければならないこと、石川県にいても日本全体や世界を見渡す視点は欠かせないということです。

さらに、平成23年に文部科学省が作成した報告書によると、アメリカや韓国などの諸外国では、8割の若者が自己肯定感を持っている一方で、日本では5割に満たないという残念な結果もあります。こうしたことから、学力の向上とともに、子どもたちの発達段階に応じて、しっかりと自己肯定感を持たせ、チャレンジ精神を養い、人間力を身に付けさせるといったことが、今の学校教育の課題であると考えております。

自分の将来像をしっかりとイメージし、それに向けて何をしなければいけないのか。高校、大学に進学するときに、自分はそこで何を学び、身につけるのか。こうしたことは、一朝一夕に培われるものではなく、日々の積み重ねによるものであり、その土台を学校教育が担っていると考えております。

国際化や科学技術の進展、産業や経済構造の高度化、価値観やライフスタイルの多様化など、社会は急速に変化し、複雑化しております。子どもたちに、こうした時代を生きぬくために必要となる資質・能力を身に付けさせるためには、学校現場がその機能を最大限に発揮することが重要であり、また、そのための環境整備をしっかりと行うことが、我々教育委員会の責務であると考えております。

子どもたち一人ひとりが安心して学び、確かな学力とともに、精神的なたくましさを備えた人間力をしっかりと身に付けられるよう、今後とも、市町の教育委員会や学校現場と密接に連携し、最大限の努力をしまいたいと思っております。

「第26回全国産業教育フェア石川大会」を終えて

－心と技の彩りを百万石の集いから－



石川県教育委員会事務局学校指導課
課長補佐 六反田 雅宏



1 開催まで

全国大会の開催に向けた動きは、平成26年2月よりスタートしました。一年後の平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に向けた地域活性化のイベントの一つとして全国大会の誘致は考えられないかというところが始まりでした。

正式のお願いは、平成26年6月、当時の木下教育長さん、教育委員である中村留精密機械の中村社長さんのお二方が、文部科学省にお願いに行き、新幹線金沢開業の翌28年に決定しました。

全国産フェアは、平成3年に産業教育の振興等を目標として千葉県で開催し、その後各県持ち回りで本県が26回目となります。集客目標は、2日間延べ10万人。高等学校で行われている、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の8つの専門教育を行っている生徒が全国から参集し、学習成果の展示、発表、実習系の学習から生み出された成果物等の販売、ロボット大会など、専門分野の技能を競う、コンテストや競技大会などを行うものです。

校種も専門高校を中心に産業教育を学ぶ総合学科、普通科、特別支援学校の生徒が対象となっており、大会当日は、県内外の多くの生徒で賑わいました。

2 大会組織の編成と準備

石川で大会を開催するにあたり、組織づくりから始めました。開催年の28年度に3年生となる主役の生徒は、平成26年に入学しています。生徒実行委員会のスタートは、彼らが2年生となる27年度としました。

次に影の主役である教員組織は、26年度より始めました。幸い本県では、平成10年より県産業教育フェアを小規模ながら行っており、農業、工業、商業、水産、看護、福祉の6つの分野については、専門の学科があることもあり、産フェアの組織もありました。問題は、本県に専門学科（県立）のない、家庭と情報の2つの分野です。家庭は、1校あたりの教員も1～2名、情報（専門教科）については、専科の教員がゼロと言う状況です。全国大会は、それでも本県の教員が中心となって運営しなければなりません。そこで、家庭部会は、専門高校、総合学科、普通科などの学校種を問わず、全県組織で対応してもらい、情報部会は、工業科と商業科の情報教育系の教員に新たに組織を作ってもらいました。結果的には両部会とも先生方はフル回転で頑張ってくれ、他県の評価も高かったと思います。



生徒実行委員会

イベントについては、まず、本筋を外さないことを念頭に考えました。産業教育の魅力を発信する方法は、展示や体験、競技会などいろいろありますが、何といっても3年間の研究成果、学習成果の発表です。発表会場は例年150人～200人前後の会場が多かったのですが、本大会では、最大1500人のメイン会場と、800人規模のサブ会場で行う事にしました。大会後文部科学省等から高い評価をいただいたのも、そのあたりが上手くいったからかと思えます。

石川独自のイベントとしては、農業、商業、情報の3つの分野で、次の新しい教育を眺みながら企画しました。

農業分野は、世界農業遺産に指定されている県である強みを活かし、全国の指定地域の農業高校全校に参加してもらい、農業遺産と地域、農業教育全般についても話合う企画としました。企画後、熊本県で大きな地震があり、その被災地に高校があった事から、全校による開催が心配されましたが、大会には無事参加することが出来、前日の能登地区におけるエクスカッションに始まり、大成功であったと思います。



プログラミング競技会

商業分野は、国際化する次代の教育を眺み、国際交流ブースにおけるシンガポールとの中継、工業、農業とも連携したビジネス英語コンテストを開催しました。また、次期学習指導要領で小学校から導入されるプログラミング教育については、情報分野の担当となった、商業科、工業科の教員が、コンピュータ言語J A V Aを基調とする全国プログラミングコンテストを企画しました。これら新しい企画は、本県の教育のニーズによるものですが、他県からも「良かった」という声が多数聞かれました。

準備については、大会を受けることが噂でしかなかった、平成25年頃から足かけ4年準備をしてきた部会（工業・ロボット）もあります。大会はたった2日間でしたが、この準備の過程は、教員にとっても農業や工業や商業などの産業教育部会組織にとっても、そして生徒にとっても大きな財産となったと確信しています。

次に主催については、従来の文部科学省、開催県、産業教育振興会に加え、開催市金沢市に入っただけだったが、大変大きかったと思います。宮城、三重と県都以外の10万人規模の地方都市が続き、良い面も多かったようですが、集客には苦労していました。金沢市には、小・中学校への周知も含め、大変お世話になりました。

外部の支援としては、県内企業、大学・短大、専門学校にも大きな協力をいただきました。ブースの開設も含め物心両面で、御支援いただき、単なる高校生のイベントに終わらず、県をあげての大会にすることができたと感じています。

3 大会当日

大会の当日は、11月初旬という時期にしては好天に恵まれ、2日間とも高校生以外にも多くのお客さんに来てもらう事ができました。以下、イベントを中心に反省も含め総括してみたいと思います。

①開会式

馳前文部科学大臣をはじめ、県議会議員の方々、協賛いただいた企業の方々にも多数ご来場いただきました。式後、普段産業教育に接することのない方々に展示ブースなどを見ていただき、産業教育への理解が高まったと感じました。

②展示・体験

産業教育フェアの目的の一つとして、小・中学生への周知と言うことがあります。開催日が休日ということもありましたが、親子連れで多数見に来ていただきました。産業教育体験を指導したり、自分たちの勉強している内容が得意げに説明している高校生の姿が一番印象的でした。

③発表

発表は、生徒が専門教科の研究結果を発表する「作品・研究」発表会と、専門教育の視点で3年間の学校生活を振り返る「意見・体験」発表会を中心に、文部科学省研究事業や知的財産に関する研究発表を行いました。

県外からの視察も多数ありましたが、何よりも各学科の先端的な研究や頑張る全国の専門高校生に触れることのできた本県の高校生、教員に大きな財産が残ったと感じています。

④競技会・コンテスト

全国的な競技会は、定番となっている(1)ロボット競技大会、(2)フラワーアレンジメントコンテスト、(3)クッキングコンテスト(4)介護技術コンテストに加え、本県独自の取組として、(5)ビジネス英語コンテスト、(6)プログラミングコンテストの6つを実施しました。

プログラミングコンテストは、情報専科の高校に加え、工業高校や商業高校で情報処理を学ぶ生徒も参加し、大会では本県金沢市立工業高校が強豪校を押さえ優勝しました。工業高校や商業高校では、プログラミング教育を30年以上前から行っており、その力を示す事ができたと感じています。

⑤販売

これまでの大会でも委託販売を中心に行われていましたが、本大会ではこれを全国高校デパートとして拡大実施しました。北は北海道から南は九州まで、全国の高校が参加し、各地の特産物や授業での生産物、高校生が「商品開発」の授業等で企業と共同開発したオリジナル商品が販売されました。当日は地元の農業高校や商業高校の固定客の来場もあいまって、とても活発な販売活動が展開され、生徒からもコミュニケーション力が向上したとの感想が多数聞かれました。



賑わう全国高校デパート

⑥特設イベント会場

(1)4号館特設ステージ

4号館では、8つの専門分野と総合学科、特別支援学校による学科紹介、次期開催県である秋田県の紹介、前回の三重大会から継承した、専門高校生が地域の活性化について議論する「白熱トーク」等を実施しました。150人～200人の観客に向けたミニステージでしたが、聴衆との距離も近く、いっしょに踊ったり意見

を出し合ったりすることができました。

(2)3号館特設ステージ

3号館の販売スペース奥では、高校の課外活動を中心に、会場を盛り上げるイベントを実施しました。特に小松工業高校のマーチングや能登高校による書道パフォーマンス、特別支援学校による太鼓演舞などは、多くの観衆を集め、会場全体を盛り上げてくれました。

(3)国際交流ブース

この大会の一つの目標として「英語の溢れる産業教育フェア」ということがありました。近年、専門高校の生徒も社会に出て、海外に技術指導に行ったり、海外からの労働者といっしょに仕事をする機会も増えています。本県では、3年前より「職業英会話力育成研究事業」を行っており、農業・工業・商業高校を中心として行ってきた、コミュニケーションに重点を置いた取組の成果も、本大会に結びつける事ができました。



中継に参加するシンガポールの生徒

当日は、ALTによる模擬体験授業を行うと共に、金沢商業高校が交流を行っているシンガポールの専門高校(ポリテクニク)と中継で結び、シンガポールの生徒にも、全国産フェア石川に参加してもらいました。

⑦小中学生の参加

本大会の定番イベントとして、商業部会と看護部会が行う「キッズビジネスタウン」があります。これは、高校生が小学生に仕事のやり方を指導し、職業を模擬体験させるというもので、予約段階から応募も多く、大変盛況でした。

また、中学校の技術・家庭との連携を考え、中学生の工作や家庭作品の展示も行いました。来場した、中学生も自分たちの作品と、近接された「工業ブース」や「家庭ブース」の全国の高校生の作品を見て、産業教育への関心・理解が深まったと感じています。

4 成果の継承と今後の可能性

全国大会を終え、全国の先進的な取組と産業教育の素晴らしさを改めて感じる事ができ、本県の生徒と教員に大きな財産が残りました。たとえば、ロボット大会では、全国の強豪校の高度な技術と発想力、大会に取り組む姿勢を学ぶ事ができました。また、世界農業遺産シンボジウムや白熱トークでは、地域の活性化に産業教育を学ぶ生徒は大きな可能性を持っていることが示されました。さらに、ノーベル物理学賞の天野先生のご講演やSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)の発表からは、めまぐるしく変わっていく世界の中で、今後の産業教育がどうあるべきか考える事ができました。

これらの成果をどのように継承し、今後の教育活動に生かしていくか、私たち教育関係者の役割は大きいものがあると感じています。

5 終わりに

準備不足や失敗も多かった大会ですが、文部科学省の方が最後におっしゃった「この後の秋田県と山口県はやりにくいだろうな」という言葉が、大会関係者に対する最大の讃辞になったと感じています。改めて関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。



加賀友禪作家 佐藤由美子(瀬端由美子)さん

金沢市出身。高校卒業後、金丸修一氏に師事。27才作家登録、29才で独立。平成8年伝統加賀友禪工芸展銅賞。平成19年選抜女流作家新作競技会において最優秀賞受賞。県立工業高等学校工芸科非常勤講師。

インタビューー 文教会館 館長 宇都宮 博



思ったのがきっかけです。

～加賀友禪のいま～

- 館長** 友禪作家になるにはどうしたらよいのですか。
- 佐藤** 作家として登録するには、工房で7年以上の経験年数があり、指導を受けた先生の承認と、卸商社の承認が必要です。その後、加賀染振興協会理事会にて作品審査があり、加入が認められます。
- 館長** 7年修業して独立しても、皆すぐやっていけるわけではないですよね。
- 佐藤** 今は難しい現状があります。そのため若手が育ちにくく、作家さんも減っている状態です。産業としてはなかなか成り立たなくなってくるのではないかと危惧しています。
- 館長** 北陸新幹線のこともあり、県としては文化的な活動や伝統工芸には力を入れているのですが、なかなか効果が現れていないということですかね。
- 佐藤** 確かに加賀友禪会館などの施設の入場者数、体験数は急激に増えています。でも、それが着物の需要に結びつくかというとなかなか難しいですね。
- 館長** 加賀友禪と京友禪との違いはなんですか。
- 佐藤** 加賀友禪は写実的な草花模様を中心として絵画調の柄が多く、武家文化を背景とした落ちついた色調。外から内へぼかす外ぼかし、虫喰いが技法の特徴の1つです。京友禪は図案調の柄が中心で、公家文化を背景として華やかな色調、内から外へぼかす内ぼかしを多く用いていて、金彩や刺繍などが特徴と言われています。

～日々の進歩を感じて～

- 館長** 芸事や修業はなかなか進歩が見られないことがあると思うのですが、その中でどのような志を持って

やってこられたのですか。

佐藤 最初の頃は、見本の色を、数色の染料を使って色合わせするのですが、なかなか合わなくて、1日中その色を合わせたことがあります。何日たってもうまくならない時は、自分には向いていないんじゃないかと思いました。それがちょっとずつ合わせられるようになって、微々たる進歩が見えるなかで、じゃあ明日もう少し、もう少しというなかで続けてきました。また先輩方が根気よく丁寧に対応して下さったということもあります。やはり日々の積み重ねでしかないと思います。

館長 日々の変化を感じるのはなかなか難しく、伸び悩む時期がありますが、そこをどのように我慢できたのですか。

佐藤 私はやめたいと思ったことがないんです。失敗して落ち込むことは山のようにあるのですが、やめたいと思ったことはありません。好きな事だから続けてこられたのだと思います。

館長 達成感、充実感を得るのはどんな時ですか。

佐藤 難しい質問ですね。自分の作品を作っていて完璧だと思ったことはないです。どうしてもどこか不足を感じます。日々ここまでできたという達成感がありますが、仕事としてこれで満足したという達成感はまだないです。

～高校生にもものづくりで学んで欲しいこと～

- 館長** 石川県立工業高校で講師をなさっているということですが、高校でやることと、作家さんのやることのギャップはかなりあるのではないですか。
- 佐藤** レベルは違いますが、作業内容は同じです。加賀友禪は分業制です。私の場合はスケッチしデザインして、実物大の図案に起こした後、着物の生地青花で下絵を写します。その後専門の糊屋さんに糊をひいて貰って返ってきたものに彩色します。その後地染め、仕上げをそれぞれの職人さんをお願いします。生徒はスケッチから最後の友禪流しまでします。
- 館長** 糊をとる川のような設備はあるのですか。
- 佐藤** はい、一応流せるくらいの大きな水槽があります。学校では友禪だけでなく、絞り染め、型染めなど他の染め物も教えています。
- 館長** 染料はどうやってつくるのですか。
- 佐藤** 化学染料の粉をお湯で溶かし、原液を作ります。染料は、染める生地や技法によって変わりますし、作り方もその染料によって違います。絞り染めの時は化学染料だけでなく、天然染料を使用することもあります。

館長 化学染料の方が発色はいいですね。
 佐藤 桜や藍など自然のものもきれいな色が出ます。でも、時間がかかるものは学校で教えるのは少し難しいですね。
 館長 下絵はツクサを使うそうですが。
 佐藤 青花といいます。ツクサの花びらを絞って和紙にしみこませ、乾燥させたもので、使う時はその和紙を切って水をかけると青い汁がでます。これで描いた物は水でぬらすと消えるので、下絵に使います。化学青花もありますが、学校ではツクサのものを使用しています。
 館長 今の高校生をみてどのように感じられますか。
 佐藤 印象としては素直で明るい感じがします。ただ、少し幼いかなと思う所もあります。作業中、失敗しても大丈夫と伝えても、最初から失敗したくない間違えたくない、と言う生徒が多い気がしますね。
 館長 周りが失敗させないようにしてしまう傾向もありますよね。道がないと歩けない。加賀友禅の後継者として今の学校にご意見はありますか。
 佐藤 ものを作るとは自分自身と向き合う事にもなり、大変だし、面倒くさいですが楽しくもあります。ただものづくりは、決して一人ではできません。人との関わりがとても大事です。色々なことをものづくりを通して感じて欲しいです。
 館長 結局コミュニケーション能力が大切ですよ。

～素材集めから作品まで～



館長 下準備や素材集めはいつもやっていらっしゃるのですか。
 佐藤 そうですね。花などをスケッチする時間がなかったら写真をとったり、出かけたときにおもしろいものがあればパンフレットをもらってきたり、下準備のための時間は、日常生活の中に組み込まれています。使う花は野の花などが多いです。自然に生えている姿がきれいだと思います。雑草も好きですが売れないかな？(笑)。
 館長 素材をどのように作品にされるのですか
 佐藤 問屋さんからの依頼に応じて、書きためた図案や集めた素材の中から、テーマにあったものをもとに作品にしていきます。
 館長 注文の枠組みにはめなくてはならないので大変ではないですか。
 佐藤 私もそうですが、他の方も大変な思いをされていると思います。でも、お客さまのニーズに合わせて

製作する事は、とても大切だと思っています。
 館長 図案は実物大で作られるのですか。
 佐藤 はじめ小さいものに描いてから拡大します。拡大するとバランスが変わるので、直しながら描きます。生徒は拡大コピーしたいと言ったりもしますが、手で描いてもらいます。中には、教えたわけではないのに直しながら描ける生徒もいます。最初はなかなか出来ない生徒も1つずつ出来るようになると、その生徒の方が後でうまくなったりと色々ですね。
 館長 手心を加えながら写すのは、経験や勘が必要で、人工知能ではできない人間にしかできない能力ですよ。
 佐藤 見た目の心地よさもありますからね。違和感のない感じというか。これだけはなかなか教えられません。生徒自身が自分で経験していくしかない部分ですね。だからできるようになるまで時間がかかります。

～伝統工芸の継承と人材育成～

館長 お弟子さんはいらっしゃるのですか。
 佐藤 いないです。近年は人を育てる余力がないのが現状です。お弟子さんがいる作家さんも少ないです。
 館長 人材育成という面では難しいですね。
 佐藤 工業高校でも、毎年1、2名その道に進みたいという生徒がいるのですが、友禅工房に入るとなるとなかなか難しいですね。好きな道に行かせてあげられないのがすごく残念です。
 館長 伝統工芸の継承について何かご意見はありますか。
 佐藤 新しいジャンルに挑戦していらっしゃる方はたくさんいます。ランプシェードにしたり、楽器にほどこしてみたり、洋服やバックなど色々あります。でも、加賀友禅は着物で着てもらえたらうれしいですね。着物文化がなくなりほしくないだろうけど、どうしていったらいいのか色々な方にご意見を聞かせて頂きたいです。
 館長 今後の抱負をお聞かせ下さい。
 佐藤 最近、伝統工芸士の認定資格試験に合格しました。加賀友禅の継承や後継者育成など、少しでも役に立てればと思っています。伝統工芸士会というものがあるので、参加することで自分の幅も広がればいいですね。なによりこの仕事が好きなので、少しでも長く続けていきたいです。
 館長 何でもそうですが、功はやめざるにあり、継続は力なりですよ。でもいろんなことがあって続けられないことがある。
 佐藤 実際続けられない方も多いです。周りの理解と協力がなくて出来ないことも多いので、周りへの感謝を忘れない様に仕事を続けていきたいです。
 館長 ありがとうございます。今後、ますますのご活躍をお祈りしております。



事業報告

第29回 いしかわ県民陶芸展

期間:平成29年1月21日(土)~29日(日)

今年も、県内の陶芸愛好家の皆様から数多くの力作が寄せられました。作品は一般79点、青少年125点、招待作品2点の合計206点にのぼり、出品者も6歳から88歳と幅広い年齢層にわたりました。

審査員の先生からは、「年々レベルがあがってきており、それぞれ工夫がされている。特に青少年は固定概念がないからおもしろい作品がある。」との感想をいただきました。

会期中1千名余りの方々にご鑑賞いただくことができ、盛況のうちに幕を閉じました。ご出品いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、運営を支えてくださいました皆様方誠にありがとうございました。

いしかわ県民陶芸大賞 (最高賞)



赤掻き落とし時計陶板「時」

浦出 雅樹/桶師 野乃花/川上 晟矢/小山 龍也/
坂谷 圭悟/村井 晃大 (石川県立加賀高等学校)

審査員寸評

今までになかった、素晴らしい作品です。審査員一同を唸らせた力作です。特に、線の扱いは最高。

☆石川県教育委員会賞 2点

宇宙の星 中山 和良 (金沢市)

審査員寸評

造形の力強さに対して、杓掛けのバランスがうまいですね。全体に計算されている中での『動』が、この作品の見どころです。



「トータム ポール」-神様のお祭り

大下 瑠巳 (加賀市立庄小学校)

審査員寸評

神様の9人。どの顔を見ても最高にいい顔していますね。これ以上の顔はありません。作者はどの顔で制作されたのかな?

来場者アンケートから

- 色彩、アイデアなど楽しい作品がいっぱいあり、見るのがワクワクしました。
- 素晴らしい作品を参考にして、今後の作品づくりに励みたいと思いました。
- 入選作品へのコメントが素晴らしく楽しい。毎年作品が多く楽しみです。



審査会の様子

☆文教会館理事長賞 10点

- ・花器 寺西 芳男
- ・織部線紋花器 高畠 千得子
- ・Sea foam (海の泡) 岸田 浩嗣
- ・鮑 (大皿) 久木 一彦
- ・しあわせなと年へ♡ 炭谷 知苗恵
- ・陰と陽の間 中谷 梨香子
- ・丸谷焼オフジェ「岳」 武部 渉/中野 航太郎
- ・絵付け大皿「真の支配者ねこ」 塩谷 唯
- ・木目皿 能登町立小木中学校 共同受賞
- ・強者 宮野 克浩

「いしかわ教育ウィーク」関連行事

期間:11月1日(火)~7日(月)

教育資料ロビー展「文教会館所蔵「算数・数学」教科書のあゆみ展 ~時代を映す数学教育の変遷~」

当財団が所蔵する教育資料約5万点のうち、明治期から現代に至るまでの教科書は現在約5,700点あります。その中から今回のロビー展では、「算数・数学」の教科書を中心に展示しました。数学者 関口 開の関連資料や、古い問題集、通知表などの展示もあり、期間中多くの方にご観覧いただきました。数学教育の変遷を知っていただくとともに本事業への関心と理解を高める機会となりました。

★当財団所蔵の教育資料は地下資料室で閲覧できます。事前に文教会館TEL.076-262-7311までお問い合わせください。なお、蔵書リストは当館ホームページからダウンロードしてご覧いただけます。



教育史セミナー開催 演題「加賀一向一揆」

教育ウィーク中の11月4日(金)、当館4階大会議室において、西田谷 功氏 (元県立鶴来高等学校長、元鳥越一向一揆歴史館長) にご講演いただきました。

文献を元に加賀一向一揆の始まりから終焉までの歴史を追い、お話しの後、DVDを視聴しました。約50人の参加があり、歴史に思いを馳せるひとときとなりました。



事業紹介

教育資料収集整理事業 文教会館教育資料ロビー展のご案内

当財団では教科書や教育物具、教育文献等、県内の貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。その一環として、当館の1階ロビーでは、年間を通して収集資料の紹介や県立学校の特色ある教育活動の紹介をしています。

平成29年度は19回のロビー展(県立学校44校の出展)を予定しています。当館のロビー展が、県民の皆様にとって、教育に対する関心と理解を深める機会となれば幸いです。

いつでもお気軽にお立ち寄りください。

平成29年度 教育資料ロビー展(予定) 場所: 文教会館1階ロビー 無料

No.	期 間	展 示 名	内 容
139	4/1(土)~9(日)	文教会館収蔵資料公開展	平成28年度の収集資料
140	4/14(金)~5/6(土)	学校の一年をふり返る	H28年度の県立学校等の刊行物(学校新聞・生徒会誌等)
5月~2月 特色ある学校の活動(44校予定)			
141	5/9(火)~21(日)	県立宝達高等学校	宝達(たからたち)の取り組み
		県立羽咋工業高等学校	学校活動紹介
		県立七尾特別支援学校珠洲分校	学校紹介
142	5/25(木)~6/6(火)	県立金沢泉丘高等学校	課題研究成果発表ポスター展
		県立工業高等学校	学校紹介
143	6/10(土)~25(日)	県立金沢二水高等学校	二水高校紹介
		県立羽咋高等学校	羽咋高校紹介
		県立鹿西高等学校	鹿西高校PR活動
144	6/29(木)~7/11(火)	県立金沢辰巳丘高等学校	大きな明日へ
		県立田鶴浜高等学校	看護師・介護福祉士をめざす田鶴浜高校
145	7/15(土)~30(日)	県立小松高等学校	SSH・NSH課題研究紹介
		県立門前高等学校	地域との連携
		県立飯田高等学校	チーム飯田で一步前進
146	8/3(木)~15(火)	県立鶴来高等学校	鶴来高校の紹介
		県立いしかわ特別支援学校	いしかわ特別支援学校12年目の夢
		県立医王特別支援学校	学校紹介
147	8/19(土)~9/3(日)	県立穴水高等学校	学校紹介 (MANAI(マナイ)学という地域総合学習)
		県立錦城特別支援学校	錦城特別支援学校 作品展示
148	9/7(木)~19(火)	県立金沢西高等学校	金沢西高校紹介
		県立七尾東雲高等学校	七尾東雲高校の取り組み
		県立盲学校	学校紹介
149	9/23(土・祝)~10/9(月・祝)	県立大聖寺高等学校	大聖寺高校紹介
		県立加賀高等学校	加賀高校の取り組み
		県立小松工業高等学校	小松工業高校の活動
150	10/13(金)~25(木)	県立志賀高等学校	青春全開志賀高校
		県立輪島高等学校	学校紹介
		県立七尾特別支援学校輪島分校	学校紹介と作品展示
151	11/1(水)~7(火)	「いしかわ教育ウィーク」関連行事	
152	11/10(金)~21(火)	県立金沢伏見高等学校	学校紹介
		県立金沢向陽高等学校	学校生活の紹介
		県立能登高等学校	能登高校の魅力紹介
153	11/25(土)~12/7(木)	県立大聖寺実業高等学校	大聖寺実業の取り組み
		県立小松商業高等学校	学校の紹介(取組)
		県立松任高等学校	学校紹介
154	12/12(火)~24(日)	県立内灘高等学校	特色ある教育活動
		県立金沢桜丘高等学校	金沢桜丘高校学校紹介
		県立金沢北陵高等学校	岩手県立宮古工業高等学校との交流
155	1/20(土)~28(日)	県立津幡高等学校	学校生活・部活動の紹介
		県立明和特別支援学校	明和特別支援学校の紹介
		いしかわ県民陶芸展(予定)	
156	1/31(水)~2/12(月・振休)	県立小松明峰高等学校	小松明峰高校学校紹介
		県立翠星高等学校	翠星高校の特色
		県立七尾高等学校	いしかわニュースーパーハイスクール・スーパーサイエンスハイスクールの活動について
157	2/16(金)~27(火)	県立寺井高等学校	美術部作品展と学校紹介
		県立小松特別支援学校	学校紹介 作品展示
158	3月	県立小松瀬領特別支援学校	小松瀬領特別支援学校の紹介
		平成29年度 文教会館のあゆみ	自主事業、特別展 等

ロビー展の様子



(県立加賀高等学校)



(県立羽咋工業高等学校)



(県立小松商業高等学校)



(県立錦城特別支援学校)



(県立いしかわ特別支援学校)

★これまでのロビー展の様子は当館ホームページからご覧いただけます。

教育資料ロビー展 検索



平成29年度 文教国際理解講座のご案内 -ネイティブスピーカーによる簡単な語学講座です-

講座	内容	曜日	講座時間 (100分)
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木 木	10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように (英検準2級程度)	火 水 水 木	18:30~20:10 10:00~11:40 18:30~20:10 10:00~11:40
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように (英検2級程度)	火 水 木	10:00~11:40 10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように (英検準1級程度)	火	18:30~20:10
韓国文化 初級	韓国文化やハングルに親しむ	水	18:30~20:10
中国文化 初級	中国語(標準語)や中国の文化に親しむ	水	19:00~20:40

実施期間：平成29年5月～平成30年3月
 対象：教職員・一般・高校生
 定員：1講座20名程度
 受講料：年額36,000円(年35回)
 (教材は実費負担)
 応募期間：平成29年3月10日(金)～4月10日(月)
 ※応募期間が過ぎても定員に空きのある講座には途中入会ができます。



英米文化 講座の様子

申込方法：文教会館までお問い合わせください。
 ※当館のホームページから申込書をダウンロードできます。

文教会館国際理解講座

外国の言葉や文化を学ぶ
 楽しいひとときです。
 ぜひご応募ください!

平成29年度 文教アートウェイブのご案内 -演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください-

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費を無料でホールをお貸ししています。(照明設備費等有料)。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。

公演ご希望の方は文教会館事業課までお問い合わせの上、お申し込みください。

【平成30年度公演 募集期間】 平成29年5月1日～9月30日



バレエの街コンサート 2017



今年も素晴らしい公演をお届けします♪
 皆様、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

<今後の公演予定>

※公演の日時等は変更になる場合がございます。

石川県金沢泉丘高等学校合唱部 第8回定期演奏会 ◇入場料：500円	平成29年3月25日(土) 14:00～(開場13:30)
金沢市中学生合同合唱団 Dreaming Chorus演奏会 ◇入場料：無料	平成29年3月26日(日) 14:00～(開場13:30)
金沢高校吹奏楽部 サマーコンサート ◇入場料：無料	平成29年7月15日(土) 18:00～(開場17:30)
酒井珠江・川岸香織 ピアノジョイントリサイタル ◇入場料：1,000円(当日1,200円)	平成29年7月22日(土) 19:00～(開場18:30)
第51回金沢放送合唱団演奏会 ◇入場料：1,000円	平成29年7月29日(土) 15:00～(開場14:30)
金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマス&アンサンブルコンサート ◇入場料：無料	平成29年12月16日(土) 17:30～(開場17:00)
バレエの街コンサート2018 ◇入場料：一般2,000円 中学生以下1,000円	平成30年1月21日(日) 14:00～(開場13:30)

★応募や公演予定の詳細は、当館ホームページからご覧になれます。公演申込書もダウンロードできます。

平成29年度 「教育文化研究会」募集のご案内 ※参加ご希望の方は、文教会館事業課までお問合せください。

	研究会名	定員	年会費	内容	日時
I	もっと知りたいアジア	10	5,500円 全11回	アジアの地理、歴史、時事問題、料理等を楽しく学習する	第2土曜日 14:00~16:00
II	源氏物語を楽しむ	10	11,000円 全22回	『源氏物語』の原文等、様々な文献にあたり古典の奥深さを味わう	第3・4土曜日 10:00~12:00
III	茶道入門教室	10	11,000円 全22回	簡単なお手前、作法を1年間で学ぶ	第1・3月曜日 12:00~16:00
IV	近世芸能研究会	15	15,000円 全30回	初心者の方の詩吟入門	第1・2・3木曜日 18:00~19:00

※文教国際理解講座・文教アートウェイブ・教育文化研究会は、「いしかわ県民大学」の連携講座です。

